

(様式1)

令和7年度 学校評価結果報告書(特別支援学校用)

(1) 学校教育目標	児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じた適切な教育を行い、将来の自立と社会参加を目指して、その基盤となる「生きる力」を育成する。 ア 丈夫で元気な子ども イ 仲良く協力する子ども ウ 自分から進んで取り組み、やり遂げる子ども
------------	--

(2) 現状と課題	(現状)児童生徒の適切な実態把握と評価に基づいた授業を進めるために、ICTの活用を含め特別支援教育の専門性を高める必要がある。コミュニティ・スクールとして地域に貢献する教育活動を展開していく必要がある。 (課題)授業の研究と分析・改善、キャリア教育の推進、地域とともにある学校づくりの推進、特別支援教育の専門性の向上、地域社会における本校児童生徒に対する理解促進
-----------	--

(3) 重点目標	1 「考える・分かる・活用できる」の要素がある授業づくりの実践
	2 夢や志の実現に向けたキャリア教育の推進
	3 地域に開かれ、地域に貢献し、地域とともにある学校づくりの推進
	4 各障がい種の指導の専門性の向上、インクルーシブ教育システム

(4) 結果の公表	・本校職員、保護者、学校運営協議会委員へは配付資料で公表 ・本校ホームページに結果を公表
-----------	---

学校整理番号	特16
学校名	青森県立森田養護学校
対象障害種別	視覚・聴覚・知的・肢体・病弱

自己評価実施日	令和 8年 1月 26日(月)
学校関係者評価実施日	令和 8年 2月 4日(水)

(9) -イ 学校関係者評価委員会の構成
●学校運営協議会委員(大学准教授1名、地域住民1名、PTA会長1名、障がい児者施設長1名、社会福祉協議会支所長1名、ボランティア団体代表1名、地域学校協働活動推進員1名)
●校長、教頭、事務長、教務主任、小中高等部主任、進路指導部主事 計14名

自 己 評 価				学校関係者評価		(10) 次年度への課題と改善策
番号	(5) 評価項目	(6) 具体的方策	(7) 具体的方策による目標の達成状況	(8) 目標の達成度	(9) -ア 学校関係者からの意見・要望・評価等	
1	「考える・分かる・活用できる」の要素がある授業づくりの実践	チームで行う授業改善	・校内研究や授業研究を通して、授業実践の共有や協議を行うことで、教職員の指導力向上を図り、児童生徒の理解を深める授業づくりにつながった。	A	・生徒がリラックスしながらも真剣に取り組んでいるところに感心した。 ・余暇についての授業の中で「100のひまつぶし」という内容を取り上げていて、余暇活動を考えるのは難しいことなので、レベルの高い授業風景だと感じた。	・授業改善の取組を学校全体として共有・発展させていく体制づくりが課題として示された。次年度は、校内研究と授業づくりを関連させながら進めていく。 ・3年計画の校内研究をまとめ、ICTを活用した効果的な指導方法を、教員間で共有できるようにする。また、ICTの活用に関する学習会を実施する。
		児童生徒一人一人の実態に応じたICTを効果的に活用した授業実践の推進	・学習のねらいや児童生徒の特性に応じて効果的に取り入れるよう努め、学習活動の充実を図った。これらの取組により、児童生徒の興味・関心を高めるとともに、学習内容の理解を促すことにつながった。			
2	夢や志の実現に向けたキャリア教育の推進	小学部、中学部、高等部が連携した各学部段階におけるキャリア教育の充実	・各学部の発達段階に応じたキャリア教育を推進し、進路学習や体験的な活動を通して、児童生徒が将来の生活や働くことについて考える機会を設けた。これにより、社会参加や自立に向けた意識を高めることにつながった。	A	・色々な人材を活用し、経験値を高める体験ができていたと感じた。将来のキャリアや、自信につながっていくと思う。また、交流をすることで本校の子どもたちの素直な心を知ってもらえる。	・引き続き、地域と連携した教育活動を展開し、キャリア育成に努める。 ・進路指導について、校内の学習活動を生かし、特に、中高6年間を見通した一貫性のあるものとしていく。
		保護者・関係機関との情報共有	・関係機関や事業所との連携による職場実習や見学等を実施し、実際の社会生活を意識した学習活動を進めた。これらの取組を通して、生徒が働くことの意義や社会との関わりについて理解を深めることができた。			

3	地域に開かれ、地域に貢献し、地域とともにある学校づくりの推進	<p>学校運営協議会を活用した地域との積極的な連携・協働の推進と教育課程の編成</p>	<p>・地域清掃活動や地域ボランティアとの協働による活動を通して、児童生徒が地域社会と関わる機会を広げることができた。これらの活動により、地域への関心や社会性の育成につながった。</p>	A	<p>・地域ボランティア団体との交流活動を通して、地域の方々が本校の児童生徒を理解し、よい関係性が築かれているとの意見が出された。</p>	<p>・引き続き、地域とともにある学校づくりを意識した教育課程を編成し、学校運営協議会の意見を参考に、地域の協力を得ながら、教育活動を展開していく。</p>
		<p>ホームページなどを活用した本校及び特別支援教育に関する積極的な情報発信</p>	<p>・学校ホームページを活用し、学校行事や授業、地域との交流活動の様子を継続的に発信した。教育活動の様子を保護者や地域に広く伝えることで、本校の教育活動や特別支援教育への理解を深めることにつながった。</p>		<p>・児童生徒が生き生きと活動している様子を地域や外部に発信することで、本校の教育活動や特別支援教育への理解をより広げることが期待されている。</p>	<p>・児童生徒の活動の様子を学校ホームページ等を通して積極的に発信し、本校の教育活動や特別支援教育への理解を広げていくことが求められる。今後も地域の教育資源を活用しながら、地域とともにある学校づくりを推進していく。</p>
4	各障がい種の指導の専門性の向上、インクルーシブ教育システム	<p>知的障がい、肢体不自由、発達障がい等、各障がい種に関する指導の専門性の向上を目指す校内外の研修・校内研究の機会確保</p>	<p>・校内外の研修への参加や校内研修の充実を通して、教職員の特別支援教育に関する専門性の向上に努めた。研修内容を校内で共有することで、教職員全体の指導力向上につながった。</p>	A	<p>・教職員の研修が、課題と感じている。もっと研鑽したいという思いがあるのだと思う。全体研修を行うというのはいよと思う。学びたいという思いがあるのは素晴らしいことだと感じた。</p>	<p>・教職員の専門性向上を図るため、校内研修や外部研修への参加を促進するとともに、研修成果を校内で共有する機会をさらに充実させていく。</p>
		<p>交流及び共同学習の推進についての保護者への説明と希望への対応</p>	<p>・交流及び共同学習などの取組を通して、児童生徒が多様な人々と関わる機会を広げ、インクルーシブ教育の推進に努めた。これらの活動により、児童生徒の社会性や協調性の育成につながっている。</p>		<p>・交流活動を通して、地域の方々や関係機関の方々が本校の児童生徒の素直さや生き生きと活動する姿を知ることができ、本校の教育活動への理解が深まっているとの意見が出された。</p>	<p>・交流及び共同学習の取組を継続し、児童生徒が多様な人々と関わる機会の充実を図る必要がある。また、地域の学校や関係機関との連携を深めながら交流活動を推進するとともに、その取組を発信し、特別支援教育への理解啓発を図っていく。</p>
(11) 総括	<p>本年度は、学校教育目標の実現に向けて、「考える・分かる・活用できる授業づくりの推進」「キャリア教育の充実」「地域とともにある学校づくり」「教職員の専門性向上」を重点として教育活動を推進した。校内研究や授業研究を通して児童生徒の実態に応じた授業改善を進めるとともに、ICT機器の活用を取り入れながら主体的な学びを意識した授業づくりを進めることができた。また、各学部の発達段階に応じたキャリア教育を推進し、体験的な活動や進路学習を通して児童生徒が将来を見据えて学ぶ機会を確保することができた。</p> <p>さらに、地域清掃活動や地域ボランティアとの協働による活動など、地域と連携した教育活動を通して児童生徒が地域社会との関わりを深めるとともに、学校運営協議会の意見を教育活動に反映しながら、地域とともにある学校づくりを推進することができた。</p> <p>また、教職員についても校内外の研修を通して特別支援教育に関する専門性の向上を図り、児童生徒一人一人の実態に応じた指導の充実に努めた。学校評価の結果においても平均評価は概ね3点台後半と良好な結果が得られており、本校の教育活動は着実に推進されていると評価できる。</p> <p>今後も学校評価の結果や学校運営協議会の意見を踏まえながら教育活動の改善を図り、地域とともにある学校づくりを一層推進するとともに、児童生徒一人一人の可能性を伸ばす教育の充実に努めていく。</p>					